

わが

「自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽」の実現に向けて

あらたなる100年の歴史へ

小樽市は、北海道の西海岸のほぼ中央部に位置し、天然の良港と豊かな自然環境に恵まれたまちです。明治以降、港を核として、商業・金融・海陸輸送などの面で北海道の発展に大きな役割を果たし、歴史と文化を継承しながら、現在は全国有数の観光都市として令和4年に市制施行100年を迎えます。

本市を取り巻く環境は、人口減少と少子高齢化の進行などの問題を抱えているほか、新型コロナウイルス感染症により、観光産業をはじめとする市内経済が大きな影響を受けるなど、大変厳しい状況にあります。

一方で、歴史文化資源の活用機運の高まりや北海道新幹線の札幌

延伸が近づくなど、都市発展のさらなる好機が到来しています。令和元年に「第7次小樽市総合計画」

をスタートさせ、課題解決に向けて取り組むとともに、医療体制の整備や国内観光客の需要喚起などによる市内経済の回復に努め、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた「まちづくり」を進めています。

日本遺産「北前船」と「炭鉄港」を活用した文化観光推進へ

本市は、文化庁より日本遺産「北前船寄港地・船主集落」と「北の産業革命『炭鉄港』」の認定を受けています。北前船とは、明治期以降に北海道の産物を本州へ運び、反対に本州から北海道に生活物資などを運んだ和式帆船の通称です。炭鉄港とは、北海道の近代化を支

えた空知の石炭、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、そしてこれらをつなぐ

鉄道を軸にした物語です。北前船と炭鉄港は北海道開拓を支え、本市発展の基盤をつくりました。港と鉄道で物資と人が流入し、当時

建てられた番屋や石造り倉庫、大手銀行や商社の支店は、現在もカフェなどの飲食店、博物館などの文化施設に活用されています。本年11月28日は、本市の手宮と札幌



日本遺産「北の産業革命『炭鉄港』」の構成文化財「旧手宮鉄道施設」（国指定重要文化財）

間をつなぐ鉄道が開通して140年の記念日であり、北海道鉄道発祥の地としてJR北海道と連携したイベントを予定しています。

今後、本市が観光都市としてさらに発展するために、日本遺産を活用した広域連携に加え、本市独自の歴史や文化の体験を通じた文化観光を市民と共に取り組んでいこうと考えています。

クルーズ拠点の形成に向けて

小樽港は令和元年に開基150年、開港120周年を迎えた歴史ある港で、中心市街地に隣接しているところが特徴です。特に第3号ふ頭は、観光名所である小樽運河と隣接しており、クルーズ船が寄港した際には、市内観光を楽しむ乗船客にとって、大変便利な立地となっています。

近年は毎年、国内外から多くのクルーズ船が寄港するようになりましたが、さらにクルーズ振興を図るため、現在、第3号ふ頭およ



令和元年に開港120周年を迎えた「小樽港」

び周辺地区の再開発に官民一体となって取り組んでいるところである。大型クルーズ船に対応した岸壁や泊地の整備を進めているほか、乗船客の受け入れ環境改善のため、クルーズターミナルやバス駐車場の整備なども進めていくこととしています。

本年は新型コロナウイルス感染症の影響で全世界的にクルーズ船の運航が中止となっており、小樽港でも寄港のない状況が続いていますが、クルーズ船の受け入れ態勢強化を図り、利便性を高めるとともに、「みなと観光」の新たな魅力づくりを進め、小樽港がクルー

ズ拠点となるよう取り組みを続けています。

自然と人が紡ぐイベント

本市は、全国的にも有数の観光都市ですが、観光客の入り込みに大きく寄与しているのが、2大イベントである「おたる潮まつり」と「小樽雪あかりの路」です。

夏に行われる「おたる潮まつり」は、小樽の成長を支えた海への感謝をテーマに市民がつくるイベントです。潮音頭に太鼓やみこし、花火の打ち上げが加わり、毎年多くの市民や観光客でにぎわいます。残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響から、本年は、54回の歴史の中で初めて中止となりました。



ろうそくの灯火が古い街並みを優しく照らす「小樽雪あかりの路」

また、冬の厳寒期に行われるイベントが「小樽雪あかりの路」です。ろうそくの灯火が古い街並みを優しく照らす幻想的なイベントです。市民ボランティアによってともされる温かなろうそくの明かりが来場者を魅了します。手づくりでこだわるその取り組みは、平成18年度「ふるさとイベント大賞」(財団法人地域活性化

プロフィール

- ◆ 面積 243.83km²
- ◆ 人口 11万3121人
- ◆ 世帯数 6万2887世帯

〔将来都市像〕自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち小樽くあらたなる100年の歴史へ

〔まちの特徴〕海と山に囲まれた豊かな自然環境と、運河や歴史的建造物が情緒あふれる街並みを形成する、人情味のある商業・港湾・観光のまち

〔特産品〕寿司、水産加工品、あんかけ焼そば、ワイン、地酒、ガラス製品



小樽市長
迫 俊哉



〔観光〕小樽運河、旧国鉄手宮線、小樽市指定歴史的建造物(市内各所)、小樽市総合博物館、おたる水族館、朝里川温泉、天狗山

〔イベント〕小樽雪あかりの路(国土交通省「手づくり郷土賞」大賞)、おたる潮まつり、小樽がらす市、おたる天狗山夜景の日・おたる天狗山まつり、北の収穫祭ワインカーニバルinおたる

センター)で大賞を、平成30年度「手づくり郷土賞」(国土交通省)で大賞部門のグランプリを受賞しております。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、イベントの開催が危ぶまれるところではありますが、令和3年2月には万全の対策の上、「小樽雪あかりの路」を開催したいと考えております。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまちへ

個性豊かな武蔵野市

明治22年に4カ村などが合併してできた武蔵野村から、武蔵野町を経て、昭和22年11月3日、東京都で3番目の市として、武蔵野市は誕生しました。

23区と多摩地域の接点に位置し、市域は狭いながらも、コンパクトさを生かした利便性の高い都市、緑豊かで良好な住環境が広がる暮らしやすいまちとして評価されています。

本市には、個性豊かな三つの駅圏域があります。吉祥寺圏は、まちの特徴として回遊性があり、都内有数の商業・文化都市である一方、駅周辺を離れると落ち着いたたたずまいの住宅地もあります。三鷹駅北口を玄関とする中央圏は、市役所をはじめ、警察署、消防

署などの行政機能、市民文化会館、図書館、総合体育館といった文化・スポーツ機能が集積する地域で、

良好な住宅地も広がっています。武蔵境圏は、緑豊かな自然環境に包まれ、国際色あふれる学術ゾーンとして発展してきています。

本市では、本年度を初年度として10年間の計画期間とする「第六期長期計画」がスタートしています。第六期長期計画では、本市の目指すべき姿として「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまち」を掲げ、その実現に向けて新たな市政運営を推進しています。

**未来ある子どもたちが
希望を持ち、健やかに
暮らせるまちづくり**

子どもたちがそれぞれの個性を



0～3歳までの乳幼児とその親を対象とする施設「0123はらっぱ」

開き、伸び伸びと育つことにより、まちが未来へと続きます。そのため、子どもを安心して産み育てられ、未来ある子どもたちが希望を持ち、健やかに暮らせるまちづくりを推進しています。

待機児童ゼロを目指して、認可保育所をはじめ、認証保育所、地域型保育事業、幼稚園の預かり保育など、多様なニーズに応える形

で計画的に整備を進め、本年4月1日時点の保育所などの待機児童数（新定義）は、令和元年度から47人減り、0人となりました。今後は、子どもの医療費助成の対象を15歳から18歳までに拡大し、所得制限なく無償とする仕組みを検討し、制度の導入を目指していきます。

コミュニティを育む 市民自治のまちづくり

本市は、市民自治のまちとして発展してきました。その核となっているのは地域のコミュニティによる支え合いです。市民自治を通じた人と人との結びつきが、周りの市民の意識にも影響を与え、さらにコミュニティのつながりが育まれるという好循環のまちづくりを推進していきます。

市政運営の基本ルールを定めた「自治基本条例」と議会運営の基本ルールを定めた「議会基本条例」が、本年4月1日に同時施行となりました。自治基本条例には、市



まちに溶け込みまちにつながる「武蔵野クリーンセンター」

と市民の「情報共有」、市政への「市民参加」の保障、この二つにより「協働」して公共的課題の解決を図っていくこと、市の長期計画をはじめとする「計画に基づく市政運営」の四つを自治の基本原則として規定しています。

一般廃棄物処理施設である武蔵野クリーンセンターは、用地選定の検討段階から周辺住民などの市民参加を経て建設しました。その建て替えに伴う検討の中で、ごみ問題のみではなく、地球温暖化を踏まえた環境啓発の拠点施設として旧施設をリノベーションした「むさしのエコリゾート」が今月開館します。当施設ではさまざまな環境について学べる展示やイベント、講座などを市民と連携しながら進めていきます。

多様性を認め合い、 尊重し合う平和な社会へ

本市は、当時東洋一ともいわれた軍需工場、中島飛行機武蔵製作所があったことで、第二次世界大戦中に本土空襲の最初の目標地と

なりました。その歴史がもたらした平和に対する強い思いがまちをつくり上げ、現在の豊かな市民生活につながっています。

また、全ての人が、性別、性自認、性的指向、年齢、国籍、文化、障害の有無などにかかわらず、個性と能力を生かせる環境をつくることは、生涯にわたり生き生きと豊かに安心して生活することができる地域社会をつくる上で重要な要素です。

そのため、第六期長期計画においては、従来の施策の体系である「文化・市民生活」に新たに「平和」を加えて、「平和・文化・市民生活」としました。一人一人の命と人権が守られる真に平和な状態を保ち、多様性を認め合い、尊重し合う社会を構築していきます。

コロナ禍の中でも、 市民を守り、未来に つなげるまちづくりへ

今般のコロナ禍において、人と人が集い、語り、触れ合うという、これまでの当たり前前の生活は一変してしまつたため、行動変容を伴うこれからの社会や市政運営の在り方を熟慮しています。

市民にとって最も身近な基礎自治体として、より困難な立場、弱い立場の人に寄り添う、セーフティーネットとしての役割を果たすことが重要であると考え、市独自の支援策などの対応を進めています。

明るく前向きに、皆で知恵を出し合い、新たなことにも挑戦して、市民の皆さまと共に市政運営を進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 10・98 km²
- ◆ 人口 14万7761人
- ◆ 世帯数 7万7957世帯

〔将来都市像〕誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまち

〔まちの特徴〕コンパクトさを生かした利便性の高い都市、緑豊かで良好な住環境が広がる暮らしやすいまち

〔特産品〕東京うど



武蔵野市長
松下玲子



〔観光〕吉祥寺のまち、武蔵野クリーンセンター、武蔵野プレイス、井の頭自然文化園、武蔵野ふるさと歴史館

〔イベント〕武蔵野桜まつり、むさしの環境フェスタ、武蔵野吉祥七福神めぐり、吉祥寺アニメワンダーランド、EUSASHINOこちそうフェスタ、武蔵野イルミネーション



バルーンリリースなどを行う「平和の集い」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「若者を惹きつける自立した まちづくり」の実現に向けて

農業と工業が調和するまち
うみ・そら・みどり
まきのほら

牧之原市は、温暖な気候に恵まれ農業を中心に発展してきました。牧之原台地を中心にお茶栽培が盛んで、茶どころ静岡県の中で荒茶生産量1位を誇る全国屈指の茶産地です。

一方で、東名高速道路や新東名高速道路のアクセスに恵まれ、本市と海外とを結ぶ富士山静岡空港や御前崎港を擁し、多くの世界的企業が立地しています。平成30年度における製造品出荷額は1兆1200億円を超えるなど、周辺市町を含めた多くの人々の暮らしを支える就労の場となっています。そして夏になると、東西15kmに広がる海岸線は、海水浴やマリ

スポーツを楽しむ人たちにぎわいます。中でもサーフィンの人気は高く、本市は東京2020オリンピックのサーフィン競技において米国のホストタウンに登録されています。

また、市に所縁のある歴史上の人物として田沼意次侯が挙げられます。遠州相良藩の藩主であった意次侯は、江戸幕府老中として幕府の財政立て直しに取り組みまし



今、再評価される田沼意次侯

たが、失脚後に賄賂政治家の汚名を着せられました。しかし近年、

数々の功績やその先進的な改革手法が再評価されており、本市では令和元年、田沼意次侯生誕300年を契機に「田沼再興」を掲げ、意次侯の功績を顕彰し、各種記念事業を展開したところです。

地方自治体が抱える 深刻な人口減少

避けては通れない人口減少問題については、全国の自治体においてさまざまな施策を講じながら、いかに減少速度を緩やかにしていくか奮闘中だと思えます。

将来的に大地震が予想されている静岡県にとって、東日本大震災が人口減少に与えたインパクトは非常に大きく、本市においても震災以降、津波の恐れがある沿岸



レベル1津波防潮堤工事が進む地頭方（じとうがた）漁港

部の地価は下落し、人口の流出が続きました。そうしたことから5年の歳月と54億円の事業費をかけ、津波避難タワーや避難地、「いのち山」などの津波防災施設を市内35カ所に建設し、「命を守る」対策を実施してきました。現在も国・県・市がそれぞれの管轄においてレベル1対応の防潮堤を整備中であり、市民の安全安心を図っています。

市の人口推移を分析すると、平成の終わりから令和にかけて20代から30代、特に女性の流出が急激に進み、これが婚姻数や出生数の減



本年度完成予定のウエーブプール

少につながっていると考えています。こうした問題を解決するための方策はなく、若者や女性に優しいまちを目指し、地道な施策を積み重ねていくしかありません。幸い市内には女性が活躍できる企業がたくさんありますし、農業分野においても、若者や女性を中心に、新しい働き方、付加価値の高い農産物の栽培などに積極的に取り組んでいる経営者も出てきています。

動き出すビッグプロジェクト

平成31年にスタートした市総合計画後期基本計画の策定に当たっては、若者を対象とした視点で事業を推進することが、本市の将来に求められるものと考え、「未来若者プロジェクト（若者を惹きつける自立したまちづくり）」を戦略プロジェクトとして位置付けました。本年は、

これまで進めてきた戦略プロジェクトが具体的に事業化され、動き出す年となりました。

まず公民複合施設「ミルクィウエイスクエア」の整備です。ホームセンター跡地を活用し、市が整備する図書交流エリアと、民間が整備するカフェ、マルシェ、屋内広場などの商業エリアが隔たりになくつながる施設です。周辺にはスーパードリンク店、公園などが隣接するなど、若者やお年寄りまで市民が集い、楽しむことができます。場所となっています。現在、民間部分のみ営業を開始しており、令和3年4月には、グラウンドオーブンの予定です。

次に、東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区で進めている新しいまちづくりです。28haの区域に大型商業施設や産業施設、住宅や公共施設などを整備するもので、若者の定住を促すために「賑わいの場」や「雇用の場」、「安心して子育てができる住環境」を提供します。現在は土地区画整理事業の実施に向けた準備組合が設立され、業務代行予定者と共に令和3年度の組合設立を目指しています。

そしてもう一つは、民間企業による本格的なサーフィン用ウエーブプールの建設です。最大2・1mのチューブ（波のトンネル）を作ることができ、幅150m×縦60mのプール設備は、日本のみならずアジア初の規模で、初心者からプロ選手まで幅広い方が楽しむことができます。年度内の完成に向け工事が進められており、東京

プロフィール

- ◆ 面積 111・69km²
- ◆ 人口 4万5003人
- ◆ 世帯数 1万7081世帯

〔将来都市像〕絆と元気が創る 幸せあふれみんなが集う NEXTまきはらはら

〔まちの特徴〕全国屈指の茶産地。温暖な気候で沿岸部ではマリンスポーツが盛んな都市

〔市町村合併〕平成17年10月11日、榛原郡相良町、榛原郡榛原町が合併し、牧之原市が誕生



牧之原市長
杉本基久雄

2020オリンピックピックサーフィン競技の事前合宿場として活用できるよう関係者と調整しています。こうしたビッグプロジェクトを核として新たなまちづくりを進め、若者世代が魅力を感じる子育て、教育、雇用環境を実現することで、若者世代の交流・定住が促進され、にぎわいと希望に満ちた牧之原市の実現に努めていきます。



〔特産品〕牧之原茶、青島みかん、自然薯、イチゴ、メロン、シラス、レタス、大根、ガーベラ

〔観光〕牧之原大茶園、静波海岸、さがらサンビーチ、さがら子生れ温泉会館、油田の里公園、牧之原市史料館、大鐘家

〔イベント〕さがら草競馬、田沼意次牧之原市マラソン大会、大江八幡宮の御船神事、蛭ヶ谷の田遊び

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

古くからの歴史があり県西部の中心
「関係人口」の創出に取り組む歴史のあるまちで
海と共に発展

浜田市は、島根県西部（「石見」地方）のほぼ中央に位置するまちです。古くからの歴史があり、律令時代には「石見国」の国庁が置かれていました。江戸時代の元和5年（1619年）、浜田藩が設置



「浜田港」(左)と「浜田漁港」(右)を望む

され、城と城下町がつくられ、今日の市の礎ができました。明治の初めには「浜田県」が設置され、県庁が置かれていました。現島根県に統合後も県西部の行政、教育の中心としての役割を担い、国や県の行政機関などが置かれ、現在も県内に二つしかない大学のひとつ、島根県立大学があります。

本市は、海と共に発展してきたまちです。江戸から明治にかけては北前船の寄港地でした。国際貿易港「浜田港」は韓国釜山との間に定期航路があり、海上物流の拠点です。

基幹産業は水産業です。山陰有数の「浜田漁港」では、豊富な魚種が水揚げされています。中でも有名なのが「のどぐろ」です。平成26年9月、全米オープンテニスで準優勝した錦織圭選手（島根県

出身）が、帰国後の記者会見で「のどぐろが食べたい」と語り、一躍有名になりました。この「のどぐろ」は「市の魚」にも制定されています。

観光の柱は日本遺産の「石見神楽」

観光の柱となっているのが「石見神楽」です。石見神楽は、古くから石見地方に伝わる伝統芸能です。石見9市町には130を超える神楽団体があり、中でも本市は最も神楽が盛んで、60近い神楽団体があります。毎週土曜日には、市内の神社で「夜神楽」公演が行われ、年に数回、大規模な神楽大会もあります。

この石見神楽は、本市を中心に石見9市町で日本遺産



日本遺産に認定された「石見神楽」

に申請、令和元年5月、「石見地域で伝承される神楽」として認定されました。本来なら本年、各市町で日本遺産認定の神楽公演が行われているはずでしたが、残念ながら新型コロナウイルスの影響で、多くは休止となりました。新型コロナウイルスが終息したときには、ぜひ、全国から石見神楽を見に来ていただきたいと思えます。

全国の「浜田さん」を「関係人口」に

本市が今、最も力を入れている政策が「関係人口」の創出です。「関係人口」は、2、3年前から言われ始めた言葉ですが、本市では、それ以前から「関係人口」づくりに取り組んできました。

昭和60年代から合併前の各市町村が東京・大阪・広島に「ふるさと会」を設置し、現在も毎年、総会・交流会が行われています。平成17年からは「ふるさとメール」を始めました。市とご縁のある方に「メール会員」になっていただき、地元新聞社の協力を得て毎週1回、本市関連記事を配信していま



全国の「浜田さん」を花火大会にご招待

す。現在のメール会員は約640人です。平成28年からは「ふるさと納税」者向けメルマガも始めました。本市にふるさと納税で寄付をされた方に登録していただき、ふるさと納税関連情報や市の観光情報などを配信しています。現在の登録者は約8万7千人です。

令和元年度に取り組んだのが、名前つながりで全国の「浜田さん」を関係人口にする取り組みです。浜田藩が設置されて400年目となった令和元年、「浜田開府400年」の記念事業を行いました。その一つが「全国の浜田さん、いらっしやい」事業です。宿泊費助成、石見神楽や花火大会招待などの特典を用意し、全国から「浜田さん」に来ていただき、希望者には「特別住民票」を発行しました。この事業で、全国から365人の「浜田さん」に宿泊していただき、277人に特別住民票を交付、87人にふるさとメール会員になっていただきました。

「浜田応援団」の組織化に取り組む

本年4月、「関係人口」担当の専任部署として「定住関係人口推進

課」を設置しました。今、新部署で取り組んでいるのが「浜田応援団」の組織化です。本市に愛着があり、ご自身の知識、スキル、経験を生かして地域課題の解決に協力いただける方を募り、応援団員になっていただくという取り組みです。応援団長には、本市出身

で元楽天イーグルス監督の梨田昌孝さんに就任いただきました。本年8月から団員を募り、約80人（9月末現在）の方に登録をしていただいております。今後、地域課題などの地元ニーズを整理し、団員の皆さんとのマッチングを行いたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 690・68km²
- ◆ 人口 5万2826人
- ◆ 世帯数 2万6138世帯

〔将来都市像〕住みたい 住んでよかった 魅力いっぱい 元氣な浜田

〔まちの特徴〕海や山に囲まれ、自然が豊かで、海の幸、山の幸に恵まれ、浜田藩の城下町として栄えた歴史あるまち

〔市町村合併〕平成17年10月、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の5市町村が合併

〔特産品〕どんちっち三魚、西条柿、赤梨、ピオーネ、石州半紙（ユネスコ



浜田市長
久保田章市



無形文化遺産）、神楽衣装・神楽面・蛇胴

〔観光〕石見神楽（日本遺産）、石見畳ヶ浦、島根県立しまね海洋館アクアス、浜田市世界こども美術館、浜田市立石正美術館、広浜鉄道今福線遺構

〔イベント〕石州浜っ子春まつり・夏まつり、BB大鍋フェスティバル、日本石見神楽大会、浜田の夜神楽週末公演（毎土曜）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。